

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 金沢市立森山町小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒920-0843
石川県金沢市森山町二丁目13番50号

E-mail moriyama-e@kanazawa-city.ed.jp

Website <http://www.kanazawa-city.ed.jp/moriyama-e>

児童生徒数 男子 156名 女子 159名 合計 315名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

本校は金沢市の北部に位置しており、明治13年1月に開校し、今年度は創立137周年を迎えた。全校児童は312名、教職員は30名である。

校下は、昔ながらの商店街や住宅地が地域の大半を占め、近くに卯辰山や浅野川があり自然環境に恵まれている。金沢の観光名所である金沢城、東茶屋街に近く、また茶道で有名な寺院も多く、和菓子店、金箔店など金沢の伝統文化を受け継いでいる店も多く残っている。

ユネスコスクール認定を受け8年目となり、「地域の文化・自然や人との絆」をテーマに、地域の素材・題材を開発・教材化し、体験学習を取り入れた学びのプロセスを重視した持続発展教育の実践に取り組んでいる。

3年「発見 和菓子のひみつ」～知る・関わる（和菓子づくり、お茶会など）・広める～

7月1日、氷室の日に氷室まんじゅうを食べる風習を調べることで、子どもたちは、金沢には、「夏を元気に乗り切りたいという願い」や「氷室の氷を献上した歴史」があることを知った。和菓子の歴史や種類を調べていく中で、「正月の福梅や雛祭りの金花糖、婚礼の際の五色生菓子など、金沢にしかない和菓子があること」「和菓子には、人々の幸せになりたい願いが込められていること」「季節や行事に合わせて、色や形、図案が工夫されていること」などを学んでいった。

秋には、自分でつくったお茶碗と和菓子で、お茶会を校下の寺院で行った。お茶会では、相手をもてなす心に触れることができた。和菓子づくりを校下の和菓子職人さんより習い、職人さんの和菓子づくりに込める温かい気持ちに触れることができた。その後、和菓子学習でお世話になった方へ手紙を書くなど、感謝の気持ちを伝える活動へとつながっていった。金沢に根付く文化のよさを感じ取り、「和菓子の消費が日本一である金沢」の人々の生き方に触れ、自分たちも昔から受け継がれてきた風習や、和菓子にこめられた思いを大切にしていこうという気持ちをはぐくむことができた。学んだことは、授業参観で表現し、家族に伝えた。

単元の終わりには、和菓子の消費量や和菓子店の数が激減していることに触れ、今後自分たちの町のよさを受け継いでいくためには、どうすればよいか考え、意見を出し合った。

4年「金沢箔」～知る・関わる（職人さん）・考え行動する・広める～

金箔体験教室「金箔皿づくり」の制作から、「こんなに薄いこの金箔はどうやってつくるのだろう?」「金箔はいつ頃からあるのだろう」などの疑問を持ち、探究的な学びを展開していった。

学校の近くの箔屋さんに見学へ行き、金箔を作る工程を実際に見たり、職人さんの話を聞いたりすることができた。また、金箔をつかった工芸品や商品を目の当たりにし、金箔の美しさを実感することもできた。金箔を張り詰めた茶室には、子どもたちの感嘆の声がもれていた。

安江金箔工芸館では、箔打ち用の和紙づくりには浅野川が大切な水源となっており、右岸に位置している森山校下には、金箔を打つ職人さんが多くいたこと、職人さんが減少していることや「金沢箔」の現状などを聞いたりすることで、このままでは「金沢箔」がなくなってしまうのではないかとの思いを持つ子どもの姿が見られた。

こうした「金沢箔」のすばらしさや現状を知った子どもたちは、自分たちも、今、「金沢箔」のためにできることはないかと考えた。そして、「金沢箔」のすばらしさや学んだことを家族や森山町小学校の人たちに伝えるために「金箔ひみつブック」を作成した。「金沢箔」という伝統文化を大切にしたい、森山校下を誇りに思うといった感想をもつ子どもたちの姿が多く見られた。

5年「もりやまっ子太鼓をつくろう」

～知る・関わる（和太鼓「もみじ舞」）・考え行動する・広める～

地域に根付く和太鼓を守る人々の生きざまは音を通して感じるものである。子どもたちは、例年、六年生を送る会で演奏されているもみじ太鼓の音のイメージはそれなりに持っている。

今年度も和太鼓の基礎練習を講師に依頼し、教えてもらうことにした。講師の方から太鼓にかける情熱や太鼓の歴史を学びながら、太鼓をたたく事への関心も高まっていった。まず、和太鼓の演奏のお手本を聞かせてもらうことにした。そして、和太鼓の歴史の中で特に関心を持ったのは、太鼓をたたくばちは「天に突き上げ」神様にお願いをするという由来についてだった。実際にたたいてみると、講師の方のようないい音が鳴らなかった。たたき方の姿勢や構え方を再確認しながら基本の動きを覚えていった。さらに、練習時間以外にも反復練習をくり返すことで、手先でたたいていた子が、体全体でたたくことができるようになっていった。気合いの入る声も練習を重ねていく度に増していった。

そして、迎えた本番では、豆絞りを頭に巻き、気合いのこもった表情でもみじ舞を演奏した。この会を通して、全校に取り組んできたことの成果と和太鼓の良さを伝えることができた。

6年「思いを込めた加賀友禅 卒業証書台紙づくり」

～知る・関わる（卒業証書台紙作り）・考え行動する・広める（市役所での友禅卒業証書作品展示）

本校では、20年以上6年生が加賀友禅の卒業証書台紙づくりに取り組んでいる。卒業式には、自分の加賀友禅の卒業証書を持ち、中学校への決意や将来の夢を語る。

子どもたちは、まず「加賀友禅とは何か？」を調べ、草花などを写実的な絵柄にし、「ぼかし」や「虫喰い」といった独特の技法を用いた、品格のある染め物であることを知った。また、浅野川でおこなわれる友禅流しは、金沢の風物詩となっていることなどを学んでいった。次に全工程のうち、青花下絵、糊置き、彩色、友禅流しの4つを友禅の職人さん方に教えていただきながら、実際に体験した。作業は細かく集中力が必要であることから、職人さんの苦労に気づいたり、加賀友禅の仕事に誇りを持つ作家の生き方にふれたりすることができた。

さらに、「現在・今後の加賀友禅」を調べ、着物の売れ行き減少、後継者不足などの厳しい現状を知り、「自分たちが今できることは何か」を考える学びへとつなげた。まずは金沢市民がこの友禅のすばらしさを再認識することが大切であるとの考えに至り、自分たちが作った「友禅卒業証書台紙」をより多くの人に見てもらいたいと考えた。金沢市の協力を得て、市役所エントランスホールに、加賀友禅卒業証書台紙作品を展示することができた。子どもたちは加賀友禅の学習活動を通し、地域の文化と人との絆を強め、伝統文化を大切に思う心を育むことができた。

2 成果と課題

（成果）・森山の地域にある伝統産業や地域文化を教材化し、他教科との関連を図り、「知る」「関わる」「考え行動する」「広める」の4つの段階を大切に探究的な学習を進めることができた。

- ・子どもたちは、地域の良さを学んだことで、このすばらしい伝統産業・文化を大切にしていきたい、伝えていきたいという思いを持つことができた。
- ・地域の文化・自然や人との絆を取り入れた体験的な学習を行い、“本物”に出会えたことで、職人さんの生き方や考え方も学ぶことができ、自らの生き方につなげていくことができた。

（課題）・課題発見能力や問題解決能力を高める指導の工夫が必要である。学習課題に対する「学び方」について教師が共通理解を図り、児童に「学び方」を教え、積み上げていく事で、主体的な探究学習につなげていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）